

## 編 集 後 記

1960年の発刊以来62年の歴史を持つ「臨床神経学」の編集委員を2021年より拝命しました。多くの興味ある論文の査読をさせていただき、大変光栄に思っています。何卒よろしく願いいたします。

10月の編集後記です。奈良では伝統行事である鹿の角切りの季節で、紅葉で色づく奈良公園には鹿を目当てに多くの観光客が訪れます。コロナ禍で本来の人出には及びませんが、ようやく古都を散策される姿も戻ってきました。若草山や春日の森を背景に厳かな東大寺や興福寺の境内を鹿が闊歩する風情は心が癒されます。

さて、私が初めて筆頭著者として書いた論文はこの「臨床神経学」でした。1998年に「Campylobacter jejuni 腸炎後に発症した急性の多巣性伝導ブロックを伴う運動ニューロパチーの1症例」として報告し、続けて同年に「歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症に Ehlers-Danlos 症候群 III 型を合併した姉弟例」を発表しました。いずれも思い出深い症例です。上級医の先生方より論文の書き方だけでなく、論文を出す意義や authorship の考え方、査読者への回答の仕方など丁寧に指導いただきました。英語論文でもこの過程は同様で、論文の記載から出版に向けての取り組みは大いに将

来の糧となりました。本誌には症例報告が多く掲載されています。実臨床で診断や治療に有用な症例や従来の報告とは異なる発見、新たに概念が確立した疾患など有益な報告が多いと実感しています。以前から専門医試験を受験する際は最新2年分の本誌報告は通覧しておくべきといった話が流布されているのもその由縁でしょう。

私が国内留学をしていた研究所で“*No job is finished until the paperwork is done.*”の言葉を教わりました。トイレでの所作に例えて「臨床研究や基礎研究、症例報告に拘わらず、学会発表した内容は論文に仕上げ初めて仕事になる」という教訓です。学会発表より論文執筆の方が努力も苦労も多いですが、その分喜びもひとしおです。診療力向上にも業績としても今後の自らを助けるのみならず、自分の仕事を後世に伝えることで少なからず神経学の発展への貢献となります。是非、地方会や他学会で発表した症例報告を埋もれさせず、さらなる努力を積み重ねて積極的に「臨床神経学」に投稿していただければと思います。よろしく願いいたします。

(杉江和馬)

## 〈 編 集 委 員 〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子		
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬		
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利	櫻井 圭太	柴田 護
下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰	坪井 義夫	中嶋 秀人	新野 正明

「臨床神経学」	第62巻 第10号	2022年10月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一九ビル	一般社団法人日本神経学会	
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一九ビル	西 山 和 利	
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入	中西印刷株式会社	

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一九ビル  
日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>